鳥取臨床科学 14(1,2), 52-57, 2025

継続可能な服薬管理を目指した患者・家族の背景を考慮した退院支援

木島桂子[1)]　北村直子[1)]　若木彩[1)]　上野文靖[1)]　上田素子[1)]
1) 鳥取医療センター回復期リハビリテーション病棟（9 病棟）

要旨

回復期リハビリテーション病棟である B 病棟において，疾病管理・再発予防の観点から服薬管理は重要である．そこで今回, B 病棟に入院していた 2 名の患者に対し, 入院前の環境・服薬方法や家族構成・サポート状況などの情報収集を行い，生活背景をふまえた服薬管理に取り組んだ．病棟で実施した服薬管理が在宅で継続可能なものであったかの示唆を得ることを目的として，退院後 3 か月以内の患者･家族に対し，患者の在宅にてインタビューを行った．その結果，2 名とも，病棟で実施していた方法を継続することができていた．入院前の情報収集を行い，患者に見合った服薬管理に取り組むことで内服行動が習慣化することができ，在宅でも継続することができたと考えられる．患者が退院後も活用できるより良い退院支援の方法を，今後も模索していく必要がある．鳥取臨床科学 14(1,2), 52-57, 2025

Key Word

服薬管理, 退院支援, 家族指導, 自宅退院, 回復期リハビリテーション病棟

はじめに

我が国では，超高齢社会の到来により，高齢者人口の割合が 2022 年は 29.1%と前年度より 0.3%上昇している[1)]．このような社会の変化への対応として，厚生労働省は，地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しており，病院から在宅退院へ向けての退院支援が重要となる．

A 病院 B 病棟は, 脳血管疾患や骨折後の患者を主に対象とした回復期リハビリテーション病棟である．主疾患に加え, 既往歴に高血圧や糖尿病などの疾患を有しており，疾病管理・再発予防のためには確実な服薬管理が重要であると言える．

B 病棟では，患者が確実な服薬自己管理方法を選択するために，病棟独自に作成した「薬の自己管理に向けたフローチャート」を使用している．フローチャートに従ってカンファレンスで検討し，薬剤指導を行い，看護計画に反映させて活用することで，在宅退院に向けた服薬管理を実施している．脳血管疾患に起因する高次脳機能障害のある患者に対して，入院中に指導した服薬管理方法が在宅での生活においてどのように活かされているかを目的とした北村ら[2)]の先行研究から, 入院中に実施していた服薬管理方法が退院後在宅で活かされておらず，独自の方法で服薬管理を行っていたということがわかった．また,「服薬支援は, 患者の薬への意識・思い，発症前にどのように行っていたかをもとに，退院後の患者・家族の生活に見合った服薬管理方法を導く必要がある.」と述べている．当病棟は回復期リハビリテーション病棟であり，自宅退院に向けての疾病管理・再発予防のためには，入院患者の在宅での様子について，本人や家族からの聞き取りによる情報収